

■地方創生交付金関連事業KPI一覧表

【調査票4】

①種別	②交付対象事業の名称等	③事業の概要・目的	④KPI		⑤結果(数値)H30	⑥分析・評価・改善点	⑦備考	⑧担当課
			指標値	目標年度				
推進交付金	「農」あるシルバーは地域を救う！若者と共に農業で大活躍プロジェクト 【事業期間】平成29年度～平成31年度	シルバー人材センターが「農の拠点」を整備し、高齢者でも低負担で耕作でき、高品質で一定の収穫量を維持できるアイメック農法によるミニトマトの栽培を行う。収穫したミニトマトの販売により収益を得る。 また、販路開拓・ブランド化を進め、付加価値を高めることで収益の向上を図るとともに、高齢者のやりがい・生きがいのさらなる醸成につなげる。 加えて、シルバー会員が市内高齢農家への農作業支援を実施することにより、耕作放棄地の抑制につなげていく。 【平成30年度】 交付対象事業経費：10,971千円 交付決定額：5,485千円（交付率1/2）	農作物の収穫量(kg)	6,000	H30	8,407	秋からの収穫分について1粒の大きさが計画よりも大きくなったことから収穫量増につながった。栽培に関する技術知識を磨きながら適正な栽培管理を行っていく。	産業課
			耕作・販売に従事した会員数(人)	30	H30	35	栽培や収穫、バック詰めだけでなく、販売促進プロジェクトチームなど会員が主体となって活動を行った。今後も会員、職員が連携し事業を推進していく。	産業課
			高齢農家への支援件数(件)	3	H30	11	草刈り等も含めた農作業支援を実施。今後も継続して実施していく。	産業課
			農作物の販売額(円)	11,775,000	H30	6,588,769	国内産のトマト生産量増に伴い、市場価格が下落した影響を大きく受けた。直売などの比率を増やすことで市場価格に左右されにくい販売体制を整える。	産業課
	守れ伝統！はばたけ鶴飼！水辺が活躍する地域づくりプロジェクト 【事業期間】平成29年度～平成31年度	伝統漁法を守る若き船頭を育成するため、木曾川観光(株)のベテラン船頭が指導員となり、舟の舵をとる責任者「とも乗り」候補生を育成する。また、若手農業者団体「犬山農芸」が、先輩指導員として、若手見習い船頭をとも乗りの助手「なか乗り」として育成する。 市観光協会と連携し、日本の伝統漁法である「木曾川うかい」の魅力を強力にPRし、外国人観光客を積極誘致。将来的には、若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取込みを図る。	木曾川うかい乗船者数(人)	23,500	H30	21,225	台風や大雨などによる河川の増水のため、木曾川うかいが開催できない日が多く発生したことにより、乗船者数が減少した。天候不良による中止は避けられないため、今後は木曾川うかいの宣伝(PR)活動を積極的に実施するとともに、鶴飼事業の魅力を高め、実施日の稼働率を高めることに尽力する。	観光交流課
			見習い船頭の乗船回数(回)	225	H30	225	訓練は予定通りの回数を年度内に完了する予定である。	観光交流課
			一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	0	H30	0	訓練は予定通り実施出来ており、現在、より高度な操船技術を要する「とも乗り」の訓練を4名が受けている。期待通り育成が進めば、来年度末に一人前の船頭として船頭業務に従事できる見込みである。	観光交流課
			木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	79,500,000	H30	78,365,738	台風や大雨などによる河川の増水のため、木曾川うかいが開催できない日が多く発生したことにより、乗船者数が減少した。天候不良による中止は避けられないため、今後は木曾川うかいの宣伝(PR)活動を積極的に実施するとともに、鶴飼事業の魅力を高め、実施日の稼働率を高めることに尽力することで、売上額の上昇を図る。	観光交流課

■地方創生交付金関連事業KPI一覧表

【調査票4】

①種別	②交付対象事業の名称等	③事業の概要・目的	④KPI		⑤結果(数値)H30	⑥分析・評価・改善点	⑦備考	⑧担当課
			指標値	目標年度				
推進交付金	市民がまちを創る！人材活躍の場づくり事業 【事業期間】平成29年度～平成31年度	多様な主体がつながりを持ち、市内の様々な場所や機会とのマッチングを可能とするため、人材バンクを構築し、人的資源の情報の見える化を図る。また、今まで市民活動に直接参画することのなかった民間の施設やイベントなどの機会に、本取組みに賛同を得た場を「活躍の場」として認定していく。さまざまな分野の人材が集まり、地域や行政の課題解決に向けた、「経営感覚の伴った事業型の活動」を生み出し、実施していくための全く新しい受け皿となる対話の場「(仮)フューチャー・セッション・スペース(FSS)」を開催し、モデル事業を企画・実施する。 企画した事業は、FSS参加者自らが実施することで、地域への貢献と事業の達成感を感じてもらおう。また、こうした取組みの様子をSNSやホームページなどで発信することで、FSSで事業を創造していく魅力を伝え、新たな参加者を募っていくとともに、寄付金などの運営資金の確保にも努める。事業の初期段階としては、企画・実施した事業の「事業性」の検証が必要であることから、市が新設する「活躍の場づくり補助金制度」に申請するなどして一定の事業費支援を受ける。あわせて、このような新たな取り組みを将来にわたり実施していくためのルール作りの検討を住民参加型で行い、地域づくりのための理念共有を図る。 【平成30年度】 交付対象事業経費：16,736千円 交付決定額：8,368千円（交付率1/2）	「(仮)フューチャー・セッション・スペース」に参加したのべ人数(人)	100	H30	209	主催も含め、参加者に今までになかった出会いがあり、新たなつながりは確実に増えた。テーマ設定や見せ方によって新規の参加が獲得できたため、引き続き取り組んでいく。	地域安全課
			「活躍の場」として設定し、「(仮)フューチャー・セッション・スペース」で活用した商業施設のうち、売り上げの増加につながったと回答した数(件)	50	H30	0	場所や機会に関する民間資源の掘り起こしについて、具体的な民間資源の活用意向についてのヒアリングができておらず、予定していた成果に至らなかった。これまでに得てきた新たなつながりを活かし、まずは「活躍の場」としてのマッチング事例を生み出し、積み上げていく。	地域安全課
			「(仮)フューチャー・セッション・スペース」で企画・実施した事業数(本)	10	H30	5	今年度はアイデアを持ち帰りそれぞれが事業を企画実施する各回完結型としたことから、継続性の高い事業が実施された。また、対話の場づくり自体を参加者それぞれが企画し、多様な可能性が示された。数値としては下回ったものの、質の面で向上が見られた。	地域安全課
	犬山の子どもは犬山全体で育てる！女性の活躍があるまちへ！事業 【事業期間】平成30年度～平成32年度	①(仮)子育て家族気軽に集えるステーション整備事業 子育て家族が気軽に集えて、話せて、子どもも遊べる、情報が手軽に取得できて、就業(復職)や起業に繋がる情報や機会が用意され、子育て相談も気軽にできるようなサービスが一元化された場(仮)子育て家族気軽に集えるステーション)を整備する事業 ②情報収集及び発信力強化事業 民間事業者と連携。子育て&自分磨きに関する情報を集約し、様々な手法を用いて情報を発信。子育てママに必要な情報を適切に届ける「情報収集及び発信力強化事業」。加えて、市のシティプロモーション施策として市内外に幅広く発信。 ③犬山市全体で全力で子育てを応援！支援する人も大活躍事業 子育てや女性の活躍を応援する人・団体が目的や目標を共有することで、相乗的な効果が得られるネットワークを構築する。 ④シェアリングサービスを活用した新たな子育て&輝き支援事業 子育て預かりサービス事業者等と連携し、スマートフォンなどのICT等を活用した「シェアリング」を子育て施策に導入することで、子育てに係る負担を軽減。併せて交流会を開催し、子育て家族間の交流の機会を設定する。また、交流会を通じて子育てを支える側の人材も新たに発掘し、子育て支援活動を通じて地域課題を解決する担い手として活躍する場の開拓を応援。 ⑤子育てママが自分を高めて社会で輝くためのきっかけづくり事業 【平成30年度】 交付対象事業経費：18,347千円 交付決定額：9,173千円（交付率1/2）	「(仮)子育て家族気軽に集えるステーション」の利用で情報を得た後に、就業等の講座を経て「マルシェ出店」や「カフェでのワークショップ講師」などのプチ起業に繋がった子育てママの人数(人)	0	H30	0	「(仮)子育て家族気軽に集えるステーション」のオープンが1月となったため、施設の利用はしていないが、市役所で開催した講座を経て「マルシェ出店」を体験した子育てママの数は4名いる。	企画広報課 (子ども未来課)
			ステーションでのイベントやミニ講座の実施に対する参加者数(人)	30	H30	48	「(仮)子育て家族気軽に集えるステーション」のオープンが1月となったが、イベント、ミニ講座を当初の予定通り開催した。	子ども未来課 (健康推進課) (地域安全課) (企画広報課)
			シェアリングエコノミーによる子育て支援サービスを利用した人及びママ交流会に参加した人で、のちに子育て支援者(ホスト)になった人の数(人)	5	H30	5	マチマチのサービスを利用し、シェアエコ勉強会に参加して、子育て支援者として、子育て講座の講師や託児者になった人が2名。ファミリー・サポート・センターの依頼会員や、子育て講座、子育てミーティングに参加した人から、託児を引き受けるファミリー・サポート・センターの援助会員に3名(登録中)。子育て支援サービスを使用していないが、当交付金事業を託児者として応援していただける支援者が15名	子ども未来課 (企画広報課)
			「(仮)犬山全体で子育てとママの活躍を応援するネットワーク」が開催する「子育て&誰もが活躍ミーティング」に参加した人の数(人)	30	H30	30	今年度、まずは「(仮)子育て家族気軽に集えるステーション」の愛称決めワークショップを4回開催し45人の参加があった。その後1月にステーションのオープンを迎え、愛称決めワークショップメンバーから「(仮)犬山全体で子育てとママの活躍を応援するネットワーク」を募る予定だが、「子育て&誰もが活躍ミーティング」の開催準備に間に合わなかった為、今年度はネットワーク構築に向けての準備の一環として「子育て&誰もが活躍ミーティング」を開催し、人材発掘、活躍できる内容を共有する取り組みとした。	子ども未来課 (企画広報課)

■地方創生交付金関連事業KPI一覧表

【調査票4】

①種別	②交付対象事業の名称等	③事業の概要・目的	④KPI		⑤結果(数値) H30	⑥分析・評価・改善点	⑦備考	⑧担当課
			指標値	目標年度				
拠点整備交付金	<p>シルバーと若者が農で大活躍！農業活性化プロジェクト</p> <p>【事業期間】平成28年度～平成32年度</p>	<p>シルバー人材センターが「農の拠点」として、ミニトマトを栽培するためのビニルハウスを整備する。</p> <p>高齢者でも低負担で耕作でき、高い品質を維持できるアイメック農法で栽培するミニトマトを市場に出し、収入を得ることで、農業事業に関する経費を賄える水準を目指す。</p> <p>事業実施により、高齢者の就業機会の確保や生きがいづくりに資するとともに、センターの経営的自立に向けた収益性の向上を図る。</p> <p>【平成30年度】 総事業費：0 対象経費：0 交付決定額：0（交付率1/2）</p>	農作物の収穫量（kg）	6,000	H30	8,407	秋からの収穫分について1粒の大きさが計画よりも大きくなったことから収穫量増につながった。栽培に関する技術知識を磨きながら適正な栽培管理を行っていく。	産業課
			耕作・販売に従事した会員数（人）	30	H30	35	栽培や収穫、バック詰めだけでなく、販売促進プロジェクトチームなど会員が主体となって活動を行った。今後も会員、職員が連携し事業を推進していく。	産業課
			高齢農家への支援件数（件）	3	H30	11	草刈り等も含めた農作業支援を実施。今後も継続して実施していく。	産業課